

尺骨鉤状突起単独骨折の症例

お 生 ご 越 えい 英 じ 二

キーワード：coronoid process, isolated fracture

要 旨

コンクリートの土間で転倒，比較的稀な尺骨鉤状突起単独骨折の症例を経験した。単純X線では骨折は確認できず，CTで確認された。鉤状突起単独骨折は適切な治療が行われないと変形性肘関節症を生じることになるので注意を要する。

はじめに

尺骨鉤状突起は肘関節の前方安定性に重要な骨性要素であり，また鉤状突起に付着する関節包，上腕筋も重要な軟部組織要素である。また前斜走靭帯（anterior oblique ligament；AOL）が付着するため，肘関節の内側安定性に重要な役割を果たす¹⁾。通常鉤状突起単独骨折は比較的稀で鉤状突起骨折はさまざまな損傷パターンで他の骨折や靭帯損傷を伴うことが多いため，肘関節不安定性のred flagと言える。適切な治療が行われないと肘関節外反不安定性が残存し，変形性肘関節症が生じることになる。今回鉤状突起単独骨折の症例を経験したので若干の文献的考察を加え報告する。

症 例

症 例：81才男性
 主 訴：右肘関節痛
 既往歴：右変形性肘関節症。学生時代はバレーボールのアタッカーで右肘を痛め，そのころから右肘の屈伸が悪くなってきた。
 現病歴：コンクリートの土間で転倒，翌日当院受診。
 初診時所見：右肘関節周囲の腫脹を認める。力を入れると右肘が痛く箸が持てない。
 関節可動域は伸展40°屈曲90°で運動時痛あり。
 握力右0kg左22.9kgでした。
 画像所見：単純X線側面像では骨折は確認できず，(図1)受傷12日後CTで鉤状突起単独骨折が確認された。他の骨折はなかった。(図2)
 経 過：右肘関節内骨折の疑いで右肘関節90°で上腕～前腕までのギブスシーネ固定を行った。受傷68日後のCT(図3)にて仮骨形成はありそうですが骨癒合は認めず，骨片はわずかに転位が大

Eiji OGOSHI

医療法人慶生会 生越整形外科クリニック
 連絡先：〒694-00641 島根県大田市大田町大田イ263-8
 医療法人慶生会 生越整形外科クリニック